



今金町の水稲生産・Yes! Clean米のご紹介

令和5年10月
JA今金町・今金町稲作部会



地域ブランド「今金男しゃく」の取組み

JA今金町では、水稲と並ぶ地域の基幹作物である馬鈴薯（じゃがいも）の生産において、地域ブランド「今金男しゃく」を立ち上げ、差別販売に成功しております。2018年には地域団体商標として登録が認められ、2019年には、北海道の農産物としては3例目となる、国の「GI保護制度」による登録が認められました。今金町では、馬鈴薯の生産は男爵に統一化し、独自の品質基準を設定。基準に届かない品質のものは今金男しゃくとして流通させない厳しいルールのもと、生産者は基準達成に向けた生産技術を徹底しております。取組による品質の高さが認められ、北海道外の市場や消費者からの高い支持が得られています。今金町の生産者が一体感を持って取り組む姿勢は、米作りにも生きております。

ブランド保護への取組み

先祖代々、60年以上にわたり今金男しゃくを生産してきた今金町。その情熱とプライドは、東京の市場で最高ランクの価格で取引されるほど評価を得ています。今金町では先人から受け継いだ財産を護り繋いでいく証としてブランド保護に取り組んでいます。



ジーアイ

地理的表示(GI)保護制度に登録

地理的表示(GI)保護制度とは、その名称から産地が分かり、品質や社会的評価などがその産地と結び付いていることが特定できる国の制度のこと。品種を統一し、厳しい基準をもうけて長年作り続けてきた今金男しゃくは、令和元年9月9日、北海道で3番目のGI保護制度登録を果たしました。



ライマン価13.5%以上
これが、おいしさの基準。

じゃがいもらしい、ホクホクとした食感にはデンプン含有量(ライマン価)が重要です。出荷するもの全てのライマン価基準を13.5%以上としているため、どの「今金男しゃく」を食べても最高のおいしさを味わっていただくことができます。

- | 取 扱 量 | 約10,000トン(食用、採種、原種、個選あわせて)
- | 取扱期間 | 7月下旬～9月中旬(個選)、9月中旬～1月下旬(共選)
- | 品 種 | 男爵薯
- | 規 格 | 4L、3L、2L、L、LM、M、S、2S、3S、4S
- | 選別区分 | 個人選別および共同選別



今金町の米作り

日本一の清流で育つ黄金の米

今金町の長万部岳の源流から、上流にある「美利河（ぴりか）ダム」を経て、町の東西に流れる清流「後志利別川」。

「水質が最も良好な河川」に最多選出され、いわば「水質日本一」を誇るこの川を中心に、今金町の水田が広がっています。

清流の恵みを受けて、明治の昔からこの土地では米作りが行われてきました。今金米は、この天恵の水をたっぷり吸って育ちます。

職人による米作り

今金町の稲作生産者は真摯に稲作に向き合い、品質目標と栽培暦に基づく栽培管理、講習による学習など、米職人として鍛錬して米作りに取り組んでいます。

米の栽培今金ごよみ

◎米作りは年一作。だから職人は渾身の力と技を注ぐ！！

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
米の栽培今金ごよみ	育苗ハウスの除雪・設置	除草剤散布	深水管理				収穫適期の判定					
	本田融雪剤散布	育苗管理	幼穂形成期の確認				収穫・乾燥・調整・出荷					
	融雪・停滞水の排除	育苗後の床土培養	出穂期の確認				稲ワラの搬入					
	播種作業	代かき・田植え	中干し				溝切り・心土破砕					
	耕期・施肥	畦畔草刈										
	畦畔・用水補修	地区毎の病害虫の発生予測と一斉防除										
		分けつ促進の浅水管理										

※ 職人の心と技は雪と氷で研かれ、そして継承される。

(冬期は学習会を開き、常に「安全、安心、美味しい」に向かっていきます。)



水稻の生産概要

今金町の水稲生産においては、「ふっくりんこ」「ななつぼし」「ゆめぴりか」の良食味3品種を中心に作付けしております。

集荷した米は**全量、玄米調製施設にて色彩選別機を通し、異物の無い安全な米を調製**しております。また、**収穫した米は全量低温倉庫に保管され、鮮度を保ったまま出荷**されます。

一方、生産性の高い米生産を目指し、業務用多収品種の生産にも力を入れており、生産者とJAで圃場の特性に合わせた栽培品種の選定に取り組んでおります。

令和5年産米においては、業務用新品種「空育195号」の栽培試験にも取り組んでおり、今後の普及に期待を寄せているところです。

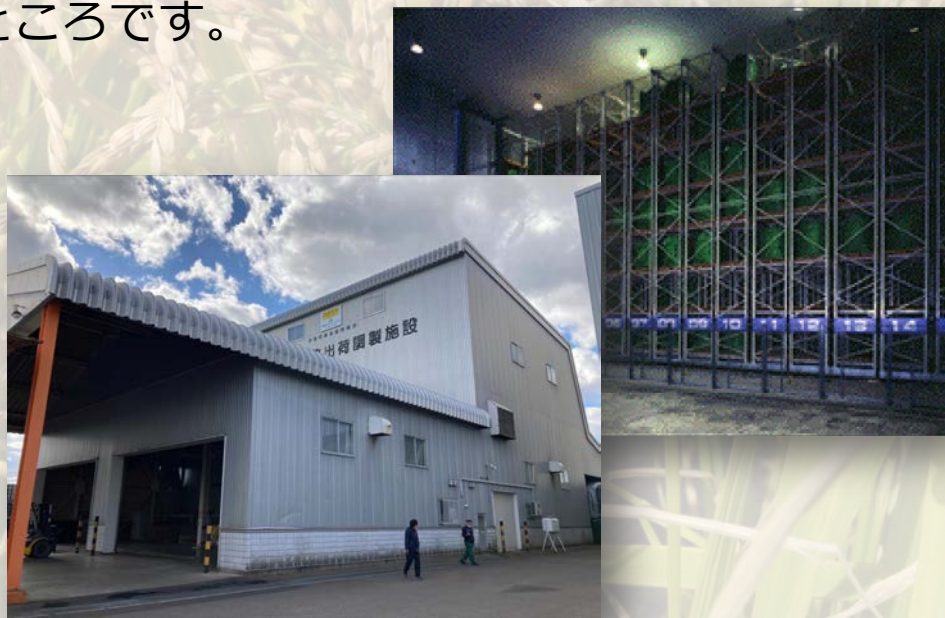
水稻生産者数 **118戸**

品種構成

単位：ha

品種	面積	構成比
ふっくりんこ	469	33%
ななつぼし	409	29%
ゆめぴりか	159	11%
きたくりん	11	1%
えみまる	19	1%
その他（業務用品種など）	351	25%
合計	1,419	100%

※加工用米・飼料用米等の水田活用米穀含む。



温調製施設と低温倉庫

Yes ! Clean米の生産概要について（令和5年産）

今金町稲作部会では、環境と安心・安全への配慮から、「北のクリーン農作物（Yes ! Clean米）」を始めとしたクリーン米の生産に取り組んでおります。「みどりの食料システム戦略」やSDGsへの関心の高まりと、比較的病害虫が少ない地域特性から、クリーン農業の取組面積は拡大傾向にあります。



北海道安心ラベル

令和5年産「Yes ! Clean米」の取組計画

部会名	今金町稲作部会 JA今金クリーン米研究会
栽培方法	Yes ! Clean 栽培
栽培戸数	23戸
栽培面積	167ha
品種	ふっくりんこ 75ha ななつぼし 73ha きたくりん 8ha 他
生産計画数量	ふっくりんこ 約310トン ななつぼし 約300トン きたくりん 約40トン



温湯消毒の様子

※今回のエントリーは「ななつ」「ふっくりんこ」各10.2トン

農薬使用回数 11回（慣行対比50%減）

化学肥料窒素施用量 6.6 k g（慣行対比34%減）

当地区の取組み・特徴について

特徴① 若い生産者の活躍

- 部会の役員やクリーン栽培に取り組んでいる生産者は30～40代が中心であり、若く、新しいことを吸収し取組む意欲の高い生産者が多いことが特徴です。
- JA青年部では積極的な地域農産物のPR活動を実施しており、2022年1月に開催された東北・北海道地区JA青年大会では、JA今金町青年部の実績発表（活動事例紹介）が“最優秀賞”に輝きました。産地と消費者との懸け橋となるべく、若き生産者が生産活動や広報活動に積極的に取り組んでおります。



特徴② 多彩な加工品の展開

- 昨今の消費者の簡便志向等のニーズに応え、気軽に今金町の農産物をご賞味頂き、地域PRに繋げるべく、さまざまな加工食品を開発・販売しています。
- 無菌米飯「今金濃米」は今金町の市販用主力3品種を展開しており、気軽にお試しいただけます。
- 「今金男しゃく」のレトルトカレーも製造しており、無菌米飯とセットでの取扱いなどによって、販売の奥行きを広げることができます。

100%今金産米を手軽に味わう。

日本一の清流、後志利別川で育まれた純度100%の今金米。「今金濃米」には「おいしいお米を手軽に食べてほしい」という想いがギュッと濃縮されています。レトルトパックなので温めるだけでいつでも味わうことができます。

- 今金濃米 ～ゆめぴりか～
内容量 200g(1人前)
- 今金濃米 ～ななつぼし～
内容量 200g(1人前)
- 今金濃米 ～ふっくらんこ～
内容量 200g(1人前)



当部会の取組み・特徴について

特徴③ SNSを活用した産地情報の発信

- 当地区では消費拡大活動やSNSを通じた情報発信に力を入れており、積極的に消費者とのコミュニケーションを実践しております。
- 青年部やJAにおいて、YouTubeやTwitterなどSNSの公式アカウントを運用し、タイムリーな記事を連日発信しています。消費者との距離が遠くても、リアルタイムな産地情報をお届けできることで、「消費者と繋がる産地」を目指しています。
- 現在、販売店舗で活用頂けるよう、産地のプロモーション動画の作成を進めております。



小学校での食育



『自動操舵装置』は、その名前の通りあらかじめ設定した区間を「まっすぐ」走ることができます。

【ロボット耕T #スマート農業】
2022今金町 自動操舵でラクラク田植え (Trimble NAV-900) 【田植え省力化を強力サポート！】
6599 回視聴 6 か月前

当部会の取組み・特徴について

特徴④ 道南生まれの特A米「ふっくりんこ」

- 道南地区の主要品種「ふっくりんこ」は、**2023年で20周年を迎えたブランド米**です。栽培適地である道南地区と空知の一部で生産されており、生産者自ら決めた「ふっくりんこサミット」の出荷基準をクリアしたものを出荷しております。
- 「ふっくりんこ」が生まれた道南地区では、道南管内JAと共同で「函館育ちふっくりんこ蔵部」を構成し、厳しい生産基準・出荷基準を定め、生産者代表による会議を定期的に行い、ブランド力を高める取組を協議・決定しています。
- 当取り組みは「ゆめぴりか」の取り組みの手本となり、全国の新興ブランド米にも影響を与えたと考えられます。

函館育ちふっくりんこ蔵部 生産・出荷基準（抜粋）

1. 栽培・生産基準
 - 土壌診断（3年毎）に基づく適正施肥。
 - 「採種圃産種子」による種子更新。
 - 苗の栽植密度は、中苗マット㎡あたり27株以上、成苗ポット㎡あたり23株以上。
2. 出荷基準
 - 2段乾燥とし、適正な乾燥調製を行う。
 - 低タンパクでの出荷を基本。
 - 乾燥調製施設もしくは当該施設に準じた水準の調製を行ったものでの出荷を基本。
3. 品質基準
 - 整粒歩合：整粒80%以上を目標。
 - 玄米白度：19.5%以上の確保を目標。
 - 精米タンパク：6.8%以下を基本とする。



函館育ちふっくりんこ蔵部 公認マーク



みどりの食料システム戦略への対応

① 土壌診断の圃場リモートセンシングによる施肥改善の推進

- ▶ 化学肥料の削減と良食味米の生産に向け、土壌分析の費用を一部支援することで生産者個々の圃場の施肥状況の改善に取り組んでおります。
- ▶ また、圃場の衛星写真を解析するリモートセンシングサービス「天晴れ」により、全圃場のタンパク傾向・施肥状況を推測し、土壌診断の結果と合わせて、適切な施肥による過剰な施肥の削減や、食味の改善、圃場の適正に合わせた作付品種の選定による生産の効率化に繋げております。



圃場センシングのデータ
(生産者圃場別の解析)

【水田土壌分析結果】									
圃場番号	圃場名称	分析日	分析機関	分析項目	分析結果	標準値	備考	単位	備考
001	水田	2022/09/03	天晴れ	タンパク含有率	12.5	10.0		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	窒素含有率	0.15	0.10		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	リン含有率	0.02	0.01		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	カリ含有率	0.05	0.03		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	有機質含有率	1.5	1.0		%	

【水田土壌診断】									
圃場番号	圃場名称	分析日	分析機関	分析項目	分析結果	標準値	備考	単位	備考
001	水田	2022/09/03	天晴れ	タンパク含有率	12.5	10.0		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	窒素含有率	0.15	0.10		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	リン含有率	0.02	0.01		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	カリ含有率	0.05	0.03		%	
001	水田	2022/09/03	天晴れ	有機質含有率	1.5	1.0		%	

土壌分析データ

分析データの営農への活用

- 圃場別施肥設計の見直し
⇒ 化学肥料の削減
⇒ 過剰施肥を避け高品質化
- 圃場に適した品種の作付
⇒ 生産性向上

みどりの食料システム戦略への対応

②生産性向上・省力化栽培への取組み

➤今金町では国営緊急農地再編整備事業により、圃場の大区画化と暗渠の整備を進めております。

農業機械の作業性が向上し、化石燃料の削減に繋がっております。

➤また、基盤整備後の圃場へ自動給水装置「wataras」や、地下水位制御システム「foeas」の設置を推進しており、水管理の省力化と、中干しの拡大によるメタンガスの削減に繋がっております。

➤このほか、自動操舵農機（GPS・直線アシスト付きコンバイン・トラクターなど）の導入が増加しており、スマート農業の拡大により、省力化と化石燃料・農薬の削減に繋がっています。



自動操舵田植え機



自動給水装置「wataras」

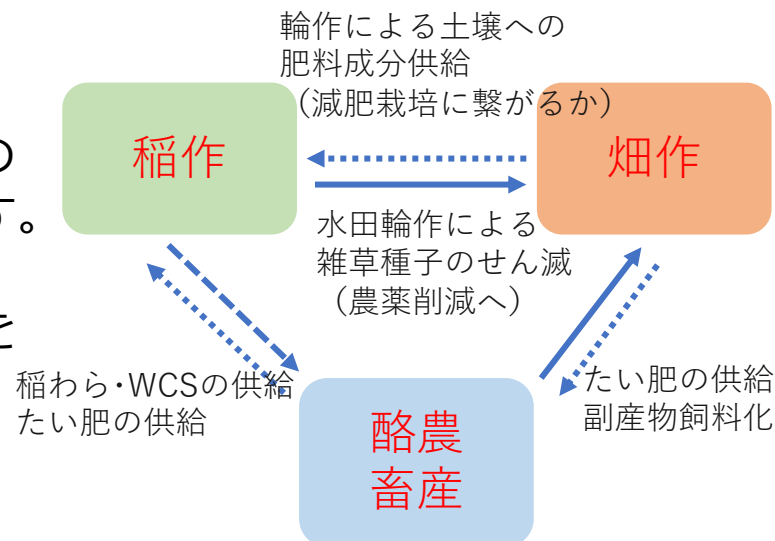
「wataras」「foeas」の活用メリット

- ・自動給水管理による中干し期間の拡大チャレンジ
⇒メタン発生抑制
- ・水位以上の把握による水害等の被害拡大の防止
- ・見回り作業の頻度削減
⇒生産性向上、化石燃料の削減

みどりの食料システム戦略への対応

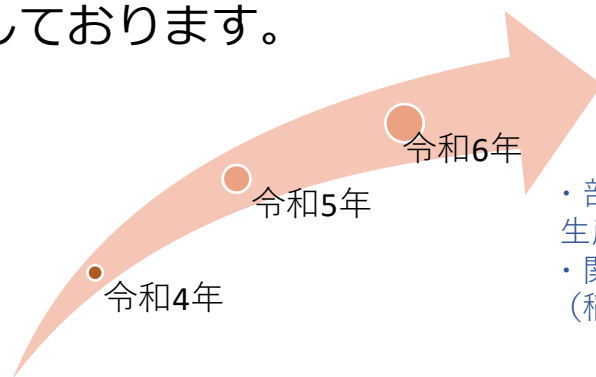
③ 耕畜連携

- 当地区では、地域の畜産・酪農業や畑作農業の資源を活用した循環型農業を目指しております。各産業の資源や特性を有効を活用することで、環境への負荷を軽減した持続的な農業の実践を目指します。



④ 稲わらの搬出・秋鋤込みの推進

- 温室効果ガスの発生抑制と良食味米生産の観点から、収穫後の稲わらの搬出または秋鋤き込みを行うよう推進しております。降雪するまでの圃場の乾燥条件にも左右され、100%実施は難しいですが、年々実施割合を向上させることを当部会の重点目標として共有し、取組を推進しております。



稲わら搬出・秋鋤き込みの実施拡大

- ・ 部会の主要目標として、秋鋤き込み実施の向上を設定。生産者の意識共有。
- ・ 関係機関と連携した良質米生産試験の実施と結果共有。(稲わら処理、土壌改良、ケイ酸資材施用等)

今後の取組みについて

これからの今金町の米作りについては、実需者・消費者のニーズや、環境対策などこれからの時代に求められる生産・販売方向性を把握しながら、今金町農業の、強みである「団結力」や「積極性」を発揮し、取り組んでまいります。

産地としての成長と、環境に配慮した米の取組深化に向け、ご指導いただきながら、共に歩んでいただける、長きパートナーとなっただけでしたら幸いです。



今金町米・Yes! Clean米をご愛顧頂けますようよろしくお願いします!